

令和4年7月22日

福島県水産海洋研究センター 海洋漁業部

福島県沖のムシガレイ



図1 ムシガレイ

ムシガレイ (*Eopsetta grigorjewi*) は、主に北海道全沿岸、青森県～対馬海峡の日本海沿岸、青森県～福島県の太平洋沿岸等の水深200m以浅に生息するとされています¹⁾。カレイ類にしては大きめの口と、体表にある虫くい穴のような模様が特徴的です(図1)。また、その身に水分が多いことから「水カレイ」とも呼ばれます。

日本における本種の主漁場は対馬南西海域～隠岐諸島周辺の日本海西部で、主に底びき網漁業(沖合底びき網、小型底びき網を含む)の重要魚種となっています。

本種の日本海南西部系群は資源評価が行われています。日本海南西部系群の漁獲量は、昭和40年代の約5,000トンを経済的に減少を続けており、令和2年の漁獲量は435トンでした²⁾。

福島県でも主に底びき網漁業により漁

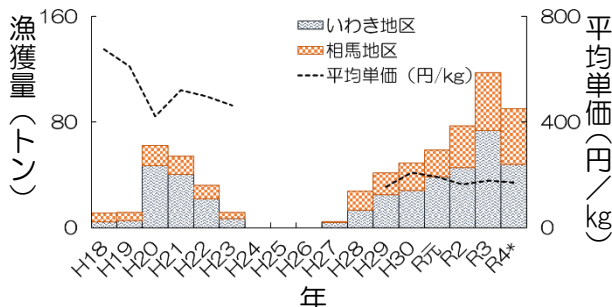


図2 ムシガレイ漁獲量・平均単価

*6月末までの速報値

獲され、平成22年(震災前年)の漁獲量は32トンでしたが、令和3年は117トンと震災前と比較して大きく増加しています(図2)。一方、平均単価は震災前と比較すると安価となっています。

本県調査指導船「いわき丸」による着底トロール調査においては、本種の分布密度の増加が確認されています(図3)。また、採集されるサイズは全長10cm未満のものから全長40cm以上のものまで幅広く、本県沖への継続的な加入があるものと考えられます。

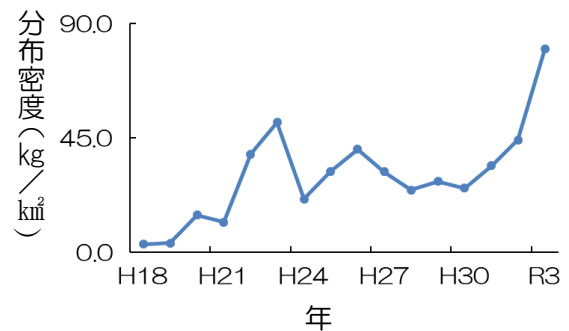


図3 調査船によるムシガレイの分布密度 (令和3年から調査地点いわき沖80mを追加)

本種は癖のない白身で、水分が多いことから干物や焼き物にして食されることが多いようですが、昆布締め等で水分を抜くと生食でも美味しく食べることができます。

【引用文献】

- 1) 中坊徹次, 2013. 日本産魚類検索 全種の同定第三版 I. p.1678
- 2) 水産研究・教育機構, 2022 令和3(2021)年度ムシガレイ日本海系群の資源評価